

第1回 ライトノベル作法研究所主催 大夏祭り大会 選評評価シート

作品名：「俺の幼馴染が聖人君子すぎて生きるのが辛い」

テーマ：「幼馴染なのに俺に惚れない美少女」

キャラクター

60

ストーリー

70

テーマ(設定)

55

文章力

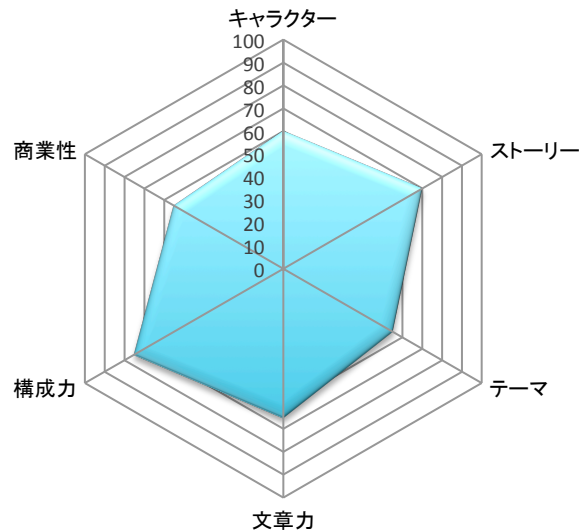
65

構成力

75

商業性

55



・見受けられる基礎的な問題点

- ・キャラクターに個性がない(もしくはその個性を生かしきれていない)
- ・キャラクターの設定にオリジナリティがなく、読んでいて新鮮さに欠ける
- ・キャラクターの行動に動機がなく、物語が都合展開になってしまっている
- ・物語の方向性が定まっておらず、読む側にだるさを感じさせてしまっている
- ・物語に登場人物達にとっての障害が登場せず、盛り上がり欠ける
- ・テーマ(世界観)が既存の作品の焼き回しで差別化されていない
- ・物語上必要のない設定を多く登場させ過ぎている
- ・意味の無い暗いテーマ(人の死、暴力等)が扱われており、後味が悪い
- ・プロットの練り方が甘い(基本的な起承転結が意識されていない)
- ・時系列の流れが不自然、もしくは視点移動が多過ぎて構成が理解しにくい
- ・物語の情景描写が足りず、読んでいて状況を想像できない
- ・文章が難解かもしくは文法的に問題があり、よく読まないと内容が理解できない
- ・伏線的な要素がなさすぎて驚きに欠ける
- ・笑いをとれる下ネタが少なく、読んでいて冷める下ネタが多い
- ・「この作品の最大の魅力はこれ!」というものがない

・総評 (もしくは、今後これをやったら更に面白い作品を書けるようになるかもという話)

・明確な起承転結が意識されていたのがとても好印象。山となるおねしょシーンや嵐のあがりさがりについてなどの情報を事前に出した上であとから効果的に使っているあたり、しっかりプロットが練られているということがよく伝わって来た。またそのおねしょをネタに使って、ゆかりが他人から受けた相談を大砲だけに話すという構図は、ゆかりが唯一大砲だけは信頼しているという演出になっており、この点も非常に巧みと感じた。

・ゆかりが聖人君子を演じることが何故大砲を守ることに繋がるかが少し分かりにくい。ただゆかりがギャップをもつことに理由・背景をつけようと考えられていること自体は非常に良かった。

・当作品はゆかりの本当の姿が大砲にしか見えていない(ゆかりが大砲にしか見えていない)と、明らかに大砲がまわりと比べて優位で独断的な立場にいる。読み手からすれば大砲視点で物語を見ることで自分が特別視されているような感覚を味わうことができ、この点は当作品の大きな魅力の一つ。だからこそ、何故大砲の一人称視点で物語を書かなかったのか疑問。確かに三人称にすることによって大砲がいないシーンの描写ができるといったメリットはあるが、それを差し引いても一人称の方が読み手にとってみればずっと感情移入しやすい作品になったのではないかな？

・キャラクターがどれも薄いので、ストーリーの本筋と多少関連をもたせたような個性が欲しい。

合計加点ポイント 0

総得点： 380 / 600

B方式総合得点： 24067 点